



# 同窓会会報

第20号

平成30年11月20日

発行

鹿児島大学教育学部  
同窓会

〒890-0065  
鹿児島市郡元1-20-6  
電話・FAX 099-285-7718

編集・印刷

濱島印刷(株)

## 同窓会の歌『我が友よ』誕生 定期総会・設立20周年記念大会開催

平成30年度同窓会総会及び設立20周年記念大会「記念式典・記念講演・祝賀会」は、連日の酷暑の中、200余名の会員の熱い思いと絆のもと8月5日にジェイドガーデンパレスで盛大に開催された。

総会では、石神正明会長、坂尾隆顧問のあいさつの後、久保正和理事の司会により、決算・予算等について協議され全て承認された。また新たな取り組みとして「同窓会運営協力金」について提案があり、承認された。これは教育学部学生の大幅な定数減に伴う収

入減や郵送料金値上げ等に対応するものである。後日届けられる要請により協力いただきたい。続いての記念式典では、亡師・亡友の御霊に黙とうの後、石神会長が20周年を迎えるに当たっての意義や同窓会の歌などの記念事業推進の経緯について触れ

ながらあいさつした。さらに上谷順三郎教育学部長より、15周年記念事業での「沿革の碑」の建立、そして今回の「同窓会の歌」の作成などでより深い絆と大学運営への協力と支援に感謝しているとあいさつされた。次に池之迫静男名誉会長、同



総会及び設立20周年記念式典

窓会の歌の作詞者伊牟田経久元教育学部長、作曲者の藤尾清信鹿児島純心女子大学教授と石田匡志教育学部准教授の四氏に感謝状が贈呈された。また、鹿児島大学長前田芳實様、鹿児島県教育委員会教育長代理の小屋敷浩昭教育次長様、鹿児島大学同窓会連合会長江口正純様から祝辞をいただいた。

続いて今回の記念事業の大きな柱である同窓会の歌「我が友よ」について作詞者の伊牟田氏より、それぞれの詞に込めた思いや同窓会員に愛されたいという思いや同窓会への思いについて話された。その後、作曲者の藤尾氏の指揮、石田氏のピアノ伴奏、教育学部音楽専修学生の斉唱により初演された。(同窓会の歌については「同窓会報19号」及び本大会記念誌に詳報)



鹿大の管弦楽団を指揮される下野竜也氏



同窓会の歌「我が友よ」斉唱

大会は予定通り進み、休息の後、講師の下野竜也氏について紹介があった。下野氏は平成4年鹿児島大学教育学部音楽科を卒業後、国内外で研鑽を積んだ世界的な指揮者であること、海外のオーケストラで客演を重ね脚光を浴びていることなどを紹介された。演題は「オーケストラと指揮者」と題し、聴衆を魅了する話が進んだ。

この日の最後は、卒業生の集いとして祝賀会に移った。52年卒の世話や進行で、生まれたばかりの「我が友よ」を声高らかに斉唱するなど楽しいひと時を過ごした。そして長い一日を野間口精元会長が閉めた。ありがとう52年卒。

本年は薩摩が活躍した明治維新から150年を迎えている中、本同窓会は設立20周年となり、その行事が8月5日盛會裡に終了し、今後の活動に大きな力となったと思います。

ご参加をいただき感謝しております。現在本同窓会員は2万名を超し、各地で活躍されています。しかし会員としての想いや同窓会活動となると厳しい現状もあります。この課題を少しでも解決したいと、これまでも努力を重ねてきました。

この歌の披露の様子は、8月8日の南日本新聞にも紹介されており、作詞者伊牟田経久先生の歌詞解説の後、作曲者藤尾清志先生の指揮、同作曲者石田匡志先生の伴奏での教育学部音楽専修学生の皆さんの斉唱で、親しみやすい素晴らしい歌が披露されました。

またその後の祝賀会の中でも出席者全員で喜んで歌い、最後には、全員が輪になり肩を組んで声高らかに歌い、大いに絆を深めることができました。この歌のCDも作成されており、これから末永く、広く同窓会員に歌い継がれていき、我が母校と同窓会を盛り上げるきっかけになっていくものと思います。

また、記念講演につきましても今回は特に実行委員会で検討がなされ、同窓生の中からというところで、ぜひ平成4年卒で



### 未来につながる20周年記念 鹿大教育学部同窓会長 石神 正明

委員や関係者の方々、それに祝賀会担当の52年卒の皆様方のご尽力があった結果であり、心からお礼申し上げます。

当日は、前田学長様はじめ多くの来賓の方々、それに各地よりご出席の会員の方々に加え、これからの時代を担う学生の皆さんも出席して200名を超す

また、記念講演につきましても今回は特に実行委員会で検討がなされ、同窓生の中からというところで、ぜひ平成4年卒で

皆様のこれまでのご尽力ご協力に感謝し、今後の同窓会の充実発展を願うものです。

## 平成30年度 同窓会運営基本方針

教育学部同窓会は、平成10年に設立されて20周年を迎える。鹿児島大学教育学部の沿革をたどれば、1875(明治8)年に始まり143年の年輪を刻む。鹿児島大学の中で本学部は最も長い歴史に支えられている学部として、2万余人の卒業生を擁する同窓会である。

本年も、さらに組織の拡充・活性化、在学生への支援、各地域の教育力の涵養、鹿児島大学同窓会連合会との連携に努め、以下の活動を推進する。

- ◇重点事項◇
- 1 組織の充実のために、各役員及び会員の積極的な参加を推進する。
- 2 学年会員同士の絆を強めるために、支部、学年ごとの同窓会の充実を図り、さらに県外在任同窓生の組織化のあり方を検討する。
- 3 会の運営を充実するため、総務、研修、広報の専門部活動の充実を図る。また、組織化と年間の活動のあり方を検討し、専門部活動の活性化を図る。
- 4 「鹿児島の教育を語る会」活動を通して、「進取の気風」にあふれる在学生の育成に努め、会員との交流を深める。
- 5 卒業後の進路が多岐にわたる状況を考慮し、在学生への支援に努める。
- 6 鹿児島大学及び鹿児島大学教育学部が行う国際交流活動及び「鹿児島の教育を語る会」の開催を充実して、在学生への支援に努める。
- 7 「人材活用事業(地域の要請に応じた児童・生徒の諸指導、生涯学習等)」の周知を図り、その推進に努める。
- 8 会費納入奨励月間を設けて、会費未納者への会費納入を勧める。
- 9 設立20周年記念大会を開催し、さらなる活力ある本会の運営に全力で当たる。

定期総会・記念大会日程

9:00～9:45 定期総会 (来賓：顧問・学部長・名誉会長) ※進行【北原】

- 1 開会のことば
  - 2 亡師・亡友の御霊に黙とう
  - 3 会長 あいさつ (石神正明 会長)
  - 4 顧問代表あいさつ (坂尾 隆 顧問)
  - 5 議長選出
  - 6 協議 (議長：久保正和 理事 説明：幹事&会計担当)
    - 1) 平成29年度 事業報告
    - 2) 平成29年度 収支決算(案)
    - 3) 平成29年度 監査報告
    - 4) 平成30年度 運営方針(案)
    - 5) 平成30年度 事業計画(案)
    - 6) 平成30年度 収支予算(案)
  - 7) 同窓会運営協力支援金について
  - 8) 設立20周年記念大会企画・実施事業関係報告
  - 9) その他
- 7 閉会のことば

10:00～10:50 記念式典 (式次第) ※進行【野間】

- 1 開式のことば (松永郁男 副会長)
- 2 式 辞 (石神正明 会長)
- 3 学部長あいさつ (上谷順三郎 学部長)
- 4 感謝状 贈呈 (池之迫静男名誉会長・伊牟田經久氏・藤尾清信氏・石田匡志氏)
- 5 来賓祝辞
  - 1) 国立大学法人鹿児島大学学長 前田芳實様
  - 2) 鹿児島県教育委員会教育長 (代理：教育庁教育次長 小屋敷浩昭様)
  - 3) 鹿児島大学同窓会連合会会長 江口正純様
- 6 来賓紹介
 

前田芳實学長・小屋敷浩昭教育次長  
江口正純同窓会連合会会長・野間口精鹿児島師範学校教育学部同窓会元会長・上谷順三郎教育学部長  
元教育学部長坂尾隆顧問・池之迫静男名誉会長
- 7 同窓会の歌「我が友よ」作詞への思いをプレゼン 作詞者：伊牟田經久氏
- 8 同窓会の歌「我が友よ」斉唱：音楽専修学生  
指揮：藤尾清信氏・ピアノ伴奏：石田匡志氏
- 9 閉式のことば (東 寛治 副会長)

11:00～12:30 記念講演 ※進行【野間】

- 1 講師紹介 (石神正明 会長)
- 2 講話&演奏指揮 (下野竜也氏) オーケストラ演奏 (鹿児島大学学友会管弦楽団)
- 3 花束贈呈：講師・コンサートマスター・学生指揮  
※プレゼンター：文城テツ子副会長・堂園範子理事・後藤千和子理事

12:50～15:20 設立20周年記念祝賀会 ～卒業生の集い～ ※進行【久永】

- 1 開会のことば (52年卒 久永 守 世話係)
- 2 会長 あいさつ (石神正明 会長)
- 3 名誉会長あいさつ (池之迫静男 名誉会長)
- 4 乾 杯 (江口正純 同窓会連合会会長)
- 5 開 宴 ※「我が友よ」のレッスン ※マジックショー ※歓談懇親
- 6 「我が友よ」斉唱 (出席者全員により円陣で肩組んで斉唱)
- 7 万歳三唱 (野間口 精 鹿児島師範学校・教育学部同窓会元会長)
- 8 閉会のことば (53年卒東園和臣世話係代表)

20周年記念大会に参加して



昭和31年卒 清藤 克之

久しぶりに、教育学部の同窓会に参加しました。私たちが昭和31年の卒業生は、毎年、鹿児島市で同窓会を開いてきています。教育学部同窓会20周年記念大会があるので、できるだけ参加しようとして、誘い合って同年の石神会長のもと出席しました。

これまで、師範学校、教育学部卒業生の合同の会があつて、卒業生によって総会の当番があり出席していました。この会に出席すると、先輩や後輩の皆様と久しぶりに会い旧交を温めることができ、喜びや懐かしさを語り合ったものでした。今年も多くの方々と顔合わせ

同窓会に参加して



昭和43年卒 下戸 勝一

8月5日、同窓会に参加した。設立20周年という記念の大会は、アイデアに満ちたすばらしいものであった。特に、同窓会の歌と記念講演は、今でも心に残っている。

私たちは、卒業以来、同窓会のたびに「北辰斜めに」を心の糧として歌い続けてきた。が、20周年を機に教育学部同窓会のシンボルとなる歌「我が友よ」が作成され発表された。初めて目にし、耳にした歌は、作詞、作曲された先生方の教育と同窓に対する熱い思いが、見事に歌い上げられ、感動した。また、「教えの道」を志し歩い

次に繋がる同窓会



鹿児島竜谷学園 恵光幼稚園長 昭和52年卒 上舞 幸徳

今年、例年にも無い暑い夏が続き夏になりました。そのような中、8月5日の会場受付では定期総会資料、記念誌、鹿児島の教育を語る会の発表文集等、重たい資料を受け取りました。資料には詳細な予定表もあり、周到な準備の一端垣間見たと思いました。

総会終了後の式典では設立20周年を記念した同窓会の歌「我が友よ」が披露されました。作詞の伊牟田

平成30年度 第21回教育学部同窓会 設立20周年記念大会

教師魂を揺さぶる同窓会

鹿児島市役所地域振興課 地域連携コーディネーター 昭和54年卒 小路 由美子



設立20周年記念同窓会は、私にとって2回目の参加でした。

鹿児島市役所地域振興課 地域連携コーディネーター 昭和54年卒 小路 由美子

大盛会となった記念同窓会。企画運営等にご尽力されたすべての皆様へ感謝したい。よき先輩、よき友、よき後輩に恵まれたことを、

何より誇りに思った大会でもあった。平成の夏は終わった。来年は、新しい時代の同窓会となる。再会を楽しみに、元気で過ごしたい。

今年、例年にも無い暑い夏が続き夏になりました。そのような中、8月5日の会場受付では定期総会資料、記念誌、鹿児島の教育を語る会の発表文集等、重たい資料を受け取りました。資料には詳細な予定表もあり、周到な準備の一端垣間見たと思いました。

総会終了後の式典では設立20周年を記念した同窓会の歌「我が友よ」が披露されました。作詞の伊牟田

のテーマ曲を聴けるのではと、少し期待していました。私の期待は外れましたが、さすが下野氏、さすが鹿児島教育学部、と大満足の講演でした。一曲が仕上がるまでの裏めつつも改善箇所を鋭く指摘する。興味深い指導は、現役に戻れるものなら、取り入れたいと思わせるものでした。指揮者の在り方を改めて感じました。学生の参加もありましたが、教職に就いている現役の皆さんに聴いてほしい講演でした。

2年ぶりの同窓会員の皆さんとの交流も大いに楽しめました。充実した時間を与えてくださった事務局役員・世話係の皆様にも心より感謝いたします。

### □平成 29 年度 教育学部同窓会一般会計決算報告書□

#### 1. 収入の部

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	増 減 額	備 考
前年度繰越費	509,527 1,720,000	509,527 1,510,000	0 △ 210,000	H 29 年度分会費納入者数 151 名 『H 29 年度納入内訳』 新生 150 名 (内 5 名大学院生) 在学生 1 名
雑収入	1,000	50,032	49,032	預金利息、寄付金
会計区分変更	500,000	500,000	0	特別会計 (記念事業積立金から受け入れ)
合 計	2,730,527	2,569,559	△ 160,968	

#### 2. 支出の部

区 分	予 算 額	決 算 額	増 減 額	備 考
事務経費	1,276,000	1,030,415	△ 245,585	賃金 558,983 円、通信費 309,490 円、文具等 43,214 円 不動産貸付料 35,532 円、その他 83,196 円
会議費	130,000	92,638	△ 37,362	理事会・役員会 36,238 円、その他 56,400 円
事業費	460,000	524,554	64,554	会報作成費 203,056 円、語る会 155,664 円 学年・教科同窓会等補助 31,296 円、人材活用事業補助 0 円 専門部活動費 134,538 円
同窓会連合会経費	140,000	133,512	△ 6,488	鹿児島大学同窓会連合会分担金 外
会計区分変更	400,000	0	△ 400,000	特別会計 (国際交流基金)へ組み換え。 ※平成 27 年度実施額の充当分 (H 29 年度は支出していないため、次年度の 2 ヶ年分支出予定)
予備費	324,527	0	△ 324,527	
合 計	2,730,527	1,781,119	△ 949,408	
次年度繰越額		788,440		

### □平成 30 年度 教育学部同窓会予算□

(単位：円)

#### 1. 一般会計

(収入の部)

区 分	平成 29 年度決算額	平成 30 年度予算額	備 考
前年度繰越	509,527	788,440	
会 費	1,510,000	1,700,000	※平成 30 年度入学者数 学校教育教員養成課程 206 名 特別支援教員養成課程 15 名 大学院生 21 名 + 17 名 (本学部卒業生) 会費納入予定者数 242 名 × 0.7 (過去の実績) = 170 名
雑収入	50,032	1,560	預金利息
会計区分変更	500,000	500,000	特別会計 (記念事業積立金) から流用
合 計	2,569,559	2,990,000	

(支出の部)

区 分	平成 29 年度決算額	平成 30 年度予算額	備 考
事務経費	1,030,415	1,076,000	賃金 550 千円、通信費 400 千円、文具等 50 千円、不動産貸付料 (事務室借料) 36 千円、本部役員手当 40 千円
会議費	92,638	180,000	総会、理事会、役員会等 150 千円、その他 30 千円
事業費	524,554	520,000	会報作成費 200 千円、鹿児島島の教育を語る会 150 千円、支部、学年、教科同窓会補助 40 千円、人材活用事業 10 千円、三専門部活動費補助 120 千円
同窓会連合会経費	133,512	140,000	鹿児島大学同窓会連合会 学部負担金 100 千円、外
会計区分変更		800,000	特別会計 (国際交流基金) へ組み替え ※H 29 (未払い)、H 30 年度実施額 (進取の精神支援基金) 400 千円充当分
予備費	0	274,000	
計	1,781,119	2,990,000	
次年度繰越額	788,440		

#### 2. 特別会計

(1) 記念事業積立金

(収入の部)

区 分	平成 29 年度決算額	平成 30 年度予算額	備 考
前年度繰越	12,037,947	11,253,481	
合 計	12,037,947	11,253,481	

(支出の部)

区 分	平成 29 年度決算額	平成 30 年度予算額	備 考
同窓会名簿資料作成	284,493	0	
20 周年記念式典・祝賀会経費	0	2,000,000	
一般会計へ流用	500,000	500,000	
合 計	784,493	2,500,000	

(2) 大会開催等準備基金

(収入の部)

区 分	平成 29 年度決算額	平成 30 年度予算額	備 考
前年度繰越	1,009,986	1,009,986	
合 計	1,009,986	1,009,986	

(支出の部)

区 分	平成 29 年度決算額	平成 30 年度予算額	備 考
大会開催等関係経費	0	1,009,486	
合 計	0	1,009,486	

(3) 国際交流基金

(収入の部)

区 分	平成 29 年度決算額	平成 30 年度予算額	備 考
前年度繰越	100,000	100,000	
一般会計からの組み替え	0	800,000	H 29、H 30 年分 進取の精神支援基金として拠出
合 計	100,000	900,000	

(支出の部)

区 分	平成 29 年度決算額	平成 30 年度予算額	備 考
国際交流基金	0	800,000	H 29、H 30 年分 進取の精神支援基金として拠出
学部国際交流活動支援	0	100,000	
合 計	0	900,000	

### ●会費納入について●

会費納入については、学生の場合は入学時に、すでに納入しているが、教育学部既卒者の場合は随時納入することになっている。同窓会は平成 10 年に設立され、会費は終身会費として 1 万円となっている。会の運営は会費によってなされ、会員の親睦や母校の発展と教育の振興を図ることを目的としている。特に、既卒者で未納になっている会員にはぜひ協力をお願いしたい。

事務局としても計画的にお願いをしているが、教科部会等を通じて納入を勧めてほしい。

納入の方法については、学年代表あるいは事務局に直接連絡してほしい。

顧問  
名誉会長  
副会長  
理事長

島尾隆秀 坂田晃彦 武田俊三 土谷理晃 上田三郎 池田順三 石神正明 松永明彦 松永正彦 文子 東城 有馬 鮫島 林野 川内 平園 下野 寺下 福屋 假満 今種 西南 植村 松崎 新主 南山 山口 久保 鶴木 福澤 後藤 宮下 伊田 宣和 千和 宣夫 洋子

### 鹿児島大学教育学部同窓会役員

幹事  
監事  
支部世話役

大島 熊毛 肝属 曾良 伊佐 出水 川薩 日置 川辺 掛宿 鹿島 世話 鹿島 世話

竹之内 野間 江口 江原 北原 瀬原 重雄 英遠 寛稔

則好 ひろみ 重遠 英雄 寛稔

寺下 福屋 假満 今種 西南 植村 松崎 新主 南山 山口 久保 鶴木 福澤 後藤 宮下 伊田 宣和 千和 宣夫 洋子

寺下 福屋 假満 今種 西南 植村 松崎 新主 南山 山口 久保 鶴木 福澤 後藤 宮下 伊田 宣和 千和 宣夫 洋子

寺下 福屋 假満 今種 西南 植村 松崎 新主 南山 山口 久保 鶴木 福澤 後藤 宮下 伊田 宣和 千和 宣夫 洋子

### 学部及び連合会の関連行事

平成 30 年 4 月 2 日 (月) 教育学部新入学生オリエンテーション (石神正明会長 挨拶)

4 月 6 日 (金) 鹿児島大学入学式 式場：県立体育館 (石神正明会長 出席)

4 月 7 日 (土) 同窓会連合会総会・懇親会「卒業生の集い」開催 城山ホテル鹿児島

5 月・8 月・11 月・平成 31 年 1 月・3 月 同窓会連合会役員会・幹事会 連合会会報：26 号・27 号発行

平成 31 年 3 月 25 日 (月) 鹿児島大学卒業式 式場：県立体育館 (石神正明会長 出席)

# ますます膨らむ 教師への夢

## 第16回「鹿児島の教育を語る会」を開催

第16回「鹿児島の教育を語る会」は、平成29年11月24日(金)午後4時から教育学部の大会議室で、教育学部の教職員・学生・卒業生約100人が参加し開催された。8グループに分かれた協議会では、学生の発表する「未来への挑戦」をもとに率直な話し合いが行われた。語る会に引き続き行われた懇親交流会では、各グループ代表が会に参加した感想や意見を述べ、「教員になりたい」という思いをますます強くした」などと発表した。

### 現職教員も参加

在学生とのふれ合い後継者育成事業として、平成14年に始まった「鹿児島の教育を語る会」も学部や同窓生の深い理解と協力で16回目を迎えた。毎回少しずつ改善を重ねながら歴史を刻み、今では教育学部同窓会の主要事業となってきた。

昨年度から小・中学校の現職教員にも参加してもらっているが、今回も附属小・中から8人参加していただいた。刻々と変わる学校教育の中にある現役と多くの経験則を持つ二元教師が、学生たちの考え方や疑問等を聞きながら不易流行の教育について熱心に語っていた。

### テーマ

今回も昨年に引き続き「未来への挑戦」というテーマを設定し、8グループに分かれて話し合った。各専修学科代表が発表した「未来への挑戦」は次のとおりである。

- ・小学校教員
- ・子供の輝く未来をつくる
- ・理解のある教育をする
- ・言葉で他者に伝える教育
- ・教育の発展に貢献する
- ・教師として人を育てること
- ・養護教諭として生徒たちを成長させる
- ・子供が夢を実現する手助け
- ・教師を目指し日々充実
- ・目標達成のために一心に取り



組む子供の育成  
子供の可能性を引き出す教育の実践

・子供と共に成長できる教師  
・鹿児島県の教員になること  
・子供たちに夢を与えること

### グループ協議

これらの発表をもとに、各グループ別に卒業生の司会で話し合いは進められていった。

教師になりたいという学生の強い気持ちとそれに応えてあげたいという先輩たちの優しく具体的な言葉が行き交った。

グループの緊張感も徐々にほぐれ、学生たちは教師になるための不安や課題等について、先輩たちに助言を求めていた。そして、未知のことを知る喜びを味わったり教師の素晴らしさを改めて感じたりすることを通して、教師になりたいという思いを強くしていた。

### 学生の感想

他専修の学生や現役の先生、引退された先生など年齢層も幅広く様々な視点から話し合いができ、貴重な経験だった。現場を経験してきたからこそ意見や考えも多く聞くことができ、大変勉強になった。

日頃教育について、このようにいろいろな立場の人と語る機会は滅多にないが、会に参加してみても是非このような機会をもっと増やして多くの学生に参加してほしいと思っ

た。懇親交流会では、食事をしながら楽しい雰囲気の中でお話しすることができた。先生方から教員生活の話や聞き、ますます私は教員になりたいという思いが強くなった。

### 発表文集の発行

学生たちが各グループで提言した発表文は、「鹿児島の教育を語る会発表文集」第3集に収録された。文集は、第9回から16回までの8年間の発表文が掲載され、教育学部同窓会設立20周年記念文集として平成30年8月に発行された。在学生や今後教育学部に入学する新入生等に配布される。

(研修部・東 寛治)

### 好きなことを続ける

教育学部美術専修4年  
山元 昌俊



私は高校時代に自分の好きなことを生かせる仕事を就きたいと考えていました。その中で次第に、教師として生徒に自分の好きな美術を教えたいと思うようになり、教育学部美術専修に入学しました。

これまで様々な体験をする中で、好きなことを続けることの素晴らしさを学びました。このことを特に実感したのは、中学から続けている弓道を通してでした。大学では地元の道場に所属することで、様々な年代の方々と練習することができ、別の仕事をしながらも生涯にわたって好きなことを続けている方々の姿がとても印象的で、自分もどんなことがあっても可能な限り好きなことを続けていきたいと強く思うようになりました。

このことは制作活動においても考えるようになり、大学生活では、陶芸を中心に美術教育について学びました。その中でも特に制作活動に取り組み、公募展などにも積極的に出品し、そこで作品が審査員の方に評価されて賞を頂くこともあり、制作活動により力が入りました。しかし、一生懸命制作した作品が評価されず、ひどく落ち込むことが一度ありました。昔から他者の評価を気にし過ぎてしまつたところがあるため、制作活動をしたくないと思つたこともあり、た。そのような時に、自分はなぜ陶芸を専門的に学び始めたのかと考え直してみると、きっかけは他者に評価してもらうためではなく、純粋に自分の好きなことだからというのを思い出しました。土などの素材を生かして自分が好きなものを素直に表現することができ、陶芸の魅力もあります。これからも生涯にわたって自分の好きなものを表現し続けていくとともに、教師として自分の経験や学びを生徒に伝えることができるよう努力していきたいです。

(研修部・東 寛治)

### 一つの波紋を

教育学部音楽専修3年  
西前 那奈



私は高校生の時に出会った国語の先生の言葉

をきっかけに教育の道に興味を持ちました。「人の人生に言葉という小石を投げ入れて、もしも波紋が残せたらそれでいい。」そう静かに教えてくれた時のことをよく覚えています。そして、どうしても音楽を学び続けたいという思いが重なり、こへ入学しました。恥ずかしながらも、入学当初は知識も何もなく、下野先生の名前も知らなかったのです。大学に入り、楽器に熱心に向き合う先輩方の姿に影響され、ようやく音楽に真剣になった私は、様々な音楽に触れることを決めました。大学の勉強だけでなく、様々なホールで舞台のお手伝いなどをしながら、毎日を過ごしています。特にこの一年間はオーケストラで指揮の勉強をさせていただき、音楽の難しさと自分の未熟さを痛感しています。「音楽は苦んで苦んで、ようやくその先に楽しさがある。」と言われた言葉が今になって強く突き刺さり、

今回の同窓会設立20周年記念大会に同窓会の歌「我が友よ」の披露合唱団、また下野先生の記念講演のオーケストラとして参加させていただきました。初演に携われることや、下野先生の指揮を間近で勉強できることは、滅多にない大変貴重な機会でした。音楽は不思議なことに指揮者が代わりと音が変わります。同じ楽団が演奏していても指揮者の動き一つで、表情一つで変わるのです。下野先生の指揮を身をもって感じたことは私にとって大きな財産です。大学生活も残り一年となりました。今、学べることに精一杯向き合い、多くの経験を積み、いつの日か、誰かの心に一つの波紋を残せる人になりたいと思います。今回の同窓会を通して、学生の我々がこのように恥ずかしくないよう、今後とも精進してまいります。

(研修部・東 寛治)

### 美術科同窓展の新風

鹿児島大学教育学部同窓会設立20周年記念  
第9回鹿児島大学教育学部美術科同窓展

実行委員会  
事務局長 井上 周一郎 (平成9年卒)

平成30年7月10日から16日まで鹿児島市立美術館で開催した「第9回鹿児島大学教育学部美術科同窓展」。今年は、教育学部同窓会が設立されて20年の節目を迎える年に当たり、記念展という形で実施しました。

開催に当たっては、より充実した展示になるよう、出品者の新規開拓や具体的な展覧会運営などに取り組み、多様な作品を展示することができました。なかでも、話題の「ミニチュア写真家・田中達也氏の作品は、ひととき目立つ存在でした。田中氏は、2017年にNHK連続テレビ小説「ひよっこ」のタイトルバックに起用され、今や国内外で個展を開くほどの人気です。インスタグラムに投稿される作品を見ると、独特の着眼点や発想力に驚きます。彼の手にかかると、身近な文房具や食べ物などが作品の一部に変化し、我々の日常は楽しい世界だと感じさせてくれます。今回の出品作品も同様で、本展の新風となり、来場者を大変魅了したように感じました。また前回から、ポスターやDMなどのデザインを依頼し、広報面でも尽力をいただきました。

田中氏に、同窓展への思いを尋ねたところ「印象としては、故郷に帰る感じと似ています。家族や親戚に自分の近況を報告するとうか(笑)。他で忙しくなると帰らない人もいたり。そういうところを含めて似ていると思います。」と答えてくれました。実行委員会としては、今後の同窓展が卒業生にとつて、田中氏のように帰りたいくなる故郷のような存在となり、

(研修部・東 寛治)



タイトル「しんぱんせん」  
田中達也氏 (ミニチュア写真家)

### 編集後記

今号には、教育学部同窓会設立20周年を祝う同窓生の熱い思いがあふれています。特に同窓会の歌「我が友よ」が作成された喜びと記念大会での下野達也氏の記念講演に対する感謝の気持ち、そして同窓生としての誇りを皆が共有し、絆がますます深まったのではないかと思います。

今年も豪雨や台風、地震などの自然災害が相次ぎ、命の危険を感じるほどの暑さにもさらされましたが、今後も、いかなる困難も乗り越え、元気に過ごしましょう。お忙しい中、玉稿を賜りました皆様には心から感謝申し上げます。広報部(文城テツ子、有馬暢洋、林賢一郎、川内野一彌、後藤千和子)